

## データについての一般的留意事項

以下の各統計表には、データとともに定義、データの出典、記号の説明をつけた。可能なかぎり、担当の国連機関のデータを使用している。国際的に標準化された推定値がない場合は、他の情報源、とくに適当なユニセフ現地事務所から受領したデータを用いた。また、可能な場合には各国の包括的または典型的状況を表すデータのみを用いた。

最近人災または天災の影響を受けた国については、データの質に悪影響が生じている可能性がある。国の基本的な社会基盤が破壊されたり、大規模な人口移動が生じた国についてはとくにその可能性が大きい。

平均余命、合計特殊出生率、粗出生率、粗死亡率などいくつかの指標は、国連人口局が日常的に行っている推定・予測作業から得られたものである。これらを含む国際的な推定値は定期的に改訂されているため、ユニセフの過去の刊行物のデータとは異なることもある。

今年はいくつかの統計表について改訂が行われている。基本統計の表（表1）では、5歳未満児死亡率および乳児死亡率について、1990年と2004年のデータを掲げた。1960年の推定値に代えて1990年の推定値を掲げたのは、ミレニアム開発目標に関わる進展のモニタリングと、その基準年である1990年により焦点を当てるためである。保健指標の表（表3）には、新たな予防接種抗原であるヘモフィルス・インフルエンザb型菌（Hib）に関するデータを追加するとともに、ジフテリア・百日咳・破傷風（DPT）混合ワクチンの推定初回接種率を追加し、DPT3の推定接種率と組み合わせることによって予防接種における脱落率が比較できるようにした。

表1および5の教育関連データについては相当の変更が行われている。表1では、初等教育純就学率/出席率の指標の計算に、利用可能な場合は2000～2004年の世帯調査で得られた出席データを、それ以外の場合はユネスコ/ユネスコ統計研究所が報告している政府の就学データを用いた。初等教育純出席率（NAR）は、初等学校に出席している子どもだけではなく中等学校に出席している子どもも含んでおり、よりの確な指標となっている。初等教育純出席率とは、公式の初等教育就学年齢に相当する年齢層の子どものうち初等学校または中等学

校に出席している子どもの割合を指す。これに加えて、成人識字率は2000年の数値のみを示すこととした。定義およびデータ収集法が異なるため、これまで掲載していた1990年の数値との比較は推奨できないからである。また、中等学校への参加状況を示す指標は、第1に純就学率を含め、第2に世帯調査から得られた中等教育純出席率を含めるという、2つの新たな方法により拡大を図った。

人口統計指標（表6）にもいくつかの追加がある。粗出生率、粗死亡率および平均余命について、1970年と現在の推定値に加え、1990年の推定値も含めたことである。これも、ミレニアム開発目標の基準年との比較を可能にするために行ったものである。

女性指標（表8）にも新たな指標が2つ、すなわち女性の初等教育・中等教育純就学率の対男性比が含まれている。これは、これまで掲載していた初等教育・中等教育総就学率を補完する目的で追加したものである。

最後に、前進の速度の指標（表10）も改訂し、1970年から1990年の間の変化、および1990年から2004年の間の変化を比較するデータを示した。これまで、この表では1960年の推定値がもっとも古い数字として用いられていた。これを1970年の推定値に変更したのは、主要な指標の変化を比較するために、より最近の、かつより比較しやすい時間枠を示すためである。

## 記号の説明

統計編の目的は世界の子どもと女性の状況に関する全体像を示すことにあるので、データについての詳細な説明や注は別の場所に掲げるのが妥当である。右の記号はすべての表に共通するものである。特定の表に使われた記号は、その表の注に掲載されている。

- データが存在しないことを示す。
- × データが各列の見出しで指定されている年次もしくは期間以外のもの、標準的な定義によらないもの、または国内の一部地域のみに関するものであることを示す。このようなデータは、地域平均または合計には含まれていない。
- \* データが、各列の見出しで指定されている期間内に入手できたもっとも最近の年次のものであることを示す。